

普及活動情勢報告（令和4年5月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ミョウガでIPM技術を普及させるために ～IPM現地実証試験報告会～	
	4月27日、JA高知県興津支所でJA営農指導員、専門技術員、農業技術センター研究員、天敵製剤メーカー担当者が参加しIPM実証試験の報告会を普及所が開催しました。 普及所から令和3年度の試験結果を報告し、今後の試験の進め方、試験結果の活用方法について検討しました。その結果、次年度試験を行うのであれば促成栽培のは場で行うこと、今年度までの結果をもとに防除マニュアルを作成することを確認しました。 今後も現場で活用できるIPM技術を開発・普及できるように天敵の活用方法の実証試験を引き続き進めていきます。

報告会の様子

育苗現地検討会の実施 ～JA高知県四万十エコ栽培米生産部会～	
	5月18日、JA高知県四万十エコ栽培米生産部会の育苗現地検討会が開催され、生産者7名が参加しました。当部会では主食用米品種「にこまる」の認知度向上、販路拡大に取り組んでいます。 普及所からは、「今後の気象予報を踏まえた発生しやすい病気とその対策」、「移植適期苗の生育状況」について説明しました。 生産者からは「あと何日で植えられそうか？」などの質問があり、苗の生育状況をみて移植適期を参加者で確認しました。 普及所は、今後もJAと連携しながら、ブランド化を支援していきます。

現地検討会の様子

夏作の株養成の状況は？ ～JA高知県四万十ニラ青壮年部現地検討会～	
	5月18日、JA高知県四万十ニラ部会青壮年部会の現地検討会が開催され、生産者13名が参加し、夏作型における株養成の状況等を意見交換しました。 普及所からは、今年度実施している品種比較試験の途中経過や「SAWACHI」の紹介を行いました。 生産者からは、「初期の根張りを良くするには何が有効か？」等の質問があり、株養成を充実させていきたい思いがひしひしと伝わってきました。 今後もJAと連携しながら、定期的に現地検討会を開催し、その時期の栽培のポイント等を意見交換できる場を提供し、ニラ部会の栽培支援を行っていきます。

現地検討会の様子

今後の生育管理は？ ～新規栽培者が農業担い手育成センターのシシトウ見学～



シシトウ見学の様子

5月13日、高知県立農業担い手育成センター内にある促成シシトウハウスで新規栽培者2名を対象にシシトウ見学を行いました。

見学では、今後のシシトウの樹姿や誘引、せん定方法などについて農業担い手育成センターのシシトウ担当者から説明を受けました。

参加者からは、「これからこんなに樹が大きくなるんだね」や「どのくらいの高さで整枝したらいいか？」など今後の生育管理に関する質問が多く出されました。

普及所では、今後もJA等関係機関と連携し新規栽培者の支援をしていきます。

決算や栽培のデータを経営に活かそう ～ミョウガ農家経営面談～



経営面談の様子

5月19日、20日、JA高知県興津支所で四万十青色申告会員のミョウガ生産者を対象に経営分析面談会を行い、30名が参加しました。

JA高知県四万十営農経済センターと合同で実施しているコンサルテーション活動の一環で、3年間の決算結果や産地の出荷データなどの経営カルテを使い、自分の経営の動きや部会平均との比較による課題整理などを行いました。昨年度の水害や作型変更の影響、栽培管理や生活の動き等も確認しました。

普及所では、今後もJAと連携し、経営や生産データを経営改善に活かせるように支援していきます。

農家の所得向上支援のために ～経営支援会議～



JAと普及所の職員で今後の指導方法等について検討

4月28日、JA高知県四万十営農経済センターで経営支援会議を開催しました。毎月1回開催するこの会議では、当普及所とJA高知県四万十営農経済センターの営農指導員が、開催前の1ヶ月に通常の巡回指導や個別に実施する農家との経営面談で聞き取りをした栽培や経営の状況を踏まえ、今後の指導方法等を検討しています。この会での検討結果を活かし就農してからの年数が浅い農家や、経営のレベルアップを目指す農家を対象として、本人が目標にあげた収量・品質等を実現するために栽培指導しています。

普及所では、今後もJAと協力し、農家が経営発展できるよう支援を続けていきます。